

高解像度土地利用土地被覆図 (JAXA) の概要

1. 概要

高解像度土地利用土地被覆図 (https://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/jp/dataset/lulc_j.htm) は、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 地球観測研究センター (EORC) が人工衛星で観測したデータを活用し、地域や国レベルを対象とした高解像度の土地被覆分類図として作成・公開している。これらは生態系評価 (動植物の生育・生息域、各種生態系サービス)、資源管理 (農林水産業、景観等) 災害対策 (洪水・土砂災害等) 等、地域・国土の保全の基盤情報としての活用を目的としている。

2. 公表情報等

内容	<p>宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 地球観測研究センター (EORC) の ALOS/ALOS-2 解析研究プロジェクトおよび「課題分野型研究：生態系研究グループ」で作成した、高解像度土地利用土地被覆図</p> <p>なお、各プロダクトの作成では筑波大学との共同研究「高解像度土地利用土地被覆図の作成」(代表: 筑波大学生命環境系 奈佐原顕郎准教授) の一環としてアルゴリズム開発や検証点情報の収集を行っている</p>
公開データ	<p>日本域およびベトナム域のデータが公開されており、以下は日本域の公開データ</p> <p>① 日本域 10m 解像度【2018～2020年】(ver.21.11 : 12 カテゴリ)</p> <p>② 日本域 30m 解像度【2014～2016年】(ver.18.03 : 10 カテゴリ)</p> <p>③ 日本域 10m 解像度【2006～2011年】(ver.16.09 : 10 カテゴリ)</p> <p>※ 【 】 は利用データの観測年、ver.番号は公開した年月を表す</p> <p>※ ダウンロードページでは、各 ver.のプロダクトでオリジナル版 (10m～30m) の他、低解像度版 (50m～500m) のデータも公開</p>
公開データ 詳細 (例)	<p>① 日本域 10m 解像度【2018～2020年】(ver.21.11 : 12 カテゴリ)</p> <ul style="list-style-type: none"> • メッシュサイズ：およそ 10m × 10m に相当 • 各画素のデジタル値は分類カテゴリの ID 番号であり、下記の通り <p>#1: 水域 (Water)</p> <p>#2: 都市 (Urban)</p> <p>#3: 水田 (Rice paddy)</p> <p>#4: 畑地 (Crops)</p> <p>#5: 草地 (Grassland)</p> <p>#6: 落葉広葉樹 (DBF)</p> <p>#7: 落葉針葉樹 (DNF)</p> <p>#8: 常緑広葉樹 (EBF)</p> <p>#9: 常緑針葉樹 (ENF)</p> <p>#10: 裸地 (Bare land)</p> <p>#11: 竹林 (Bamboo)</p> <p>#12: ソーラパネル (Solar panel)</p>

○2018~2020年 (ver.21.11) 高解像度土地利用土地被覆図の例

